



日本医師会と災害医療対策

公益社団法人
日本医師会会長
横倉義武



於 第4回防災推進国民会議(2018年12月25日)

医師会について



東京都文京区
本駒込の日本医師会館

郡市区等医師会(891)

都道府県医師会(47)

公益社団法人 日本医師会

200,400人

(全医師会員 2017年11月1日現在)



2003年文化人郵便切手
「北里柴三郎」より



山中伸弥先生も日本医師会員
(2012年ノーベル医学・生理学賞 受賞)



本庶佑先生も日本医師会員
(2018年ノーベル医学・生理学賞 受賞)

世界医師会に認められた、日本で唯一の医師個人資格で加入する団体

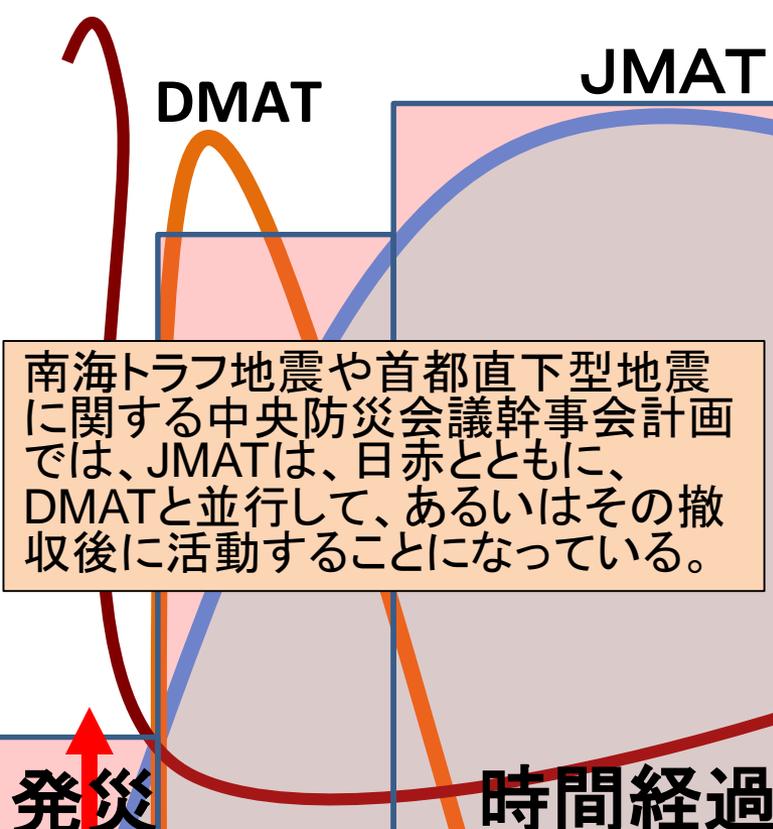
- 医師会の組織力、ネットワークを最大限に活用して、医療支援を行う。
- 発災前（災害への備え）、発災直後から地域医療の復旧まで支援。

日本医師会の災害支援の最終目標 → 被災地に、地域医療を取り戻す

JMAT（日本医師会災害医療チーム）概念図

被災地の医療復旧

↑
医療支援



南海トラフ地震や首都直下型地震に関する中央防災会議幹事会計画では、JMATは、日赤とともに、DMATと並行して、あるいはその撤収後に活動することになっている。

JMATの役割

- (1) 医療支援と健康管理
- (2) 公衆衛生支援
- (3) 被災地医師会支援
- (4) 被災地行政支援
- (5) 被災地での検視・検案支援（可能な場合のみ）
- (6) 現地の情報の収集・把握、及び派遣元都道府県医師会等への連絡
- (7) その他、被災地のニーズに合わせて支援

発災

時間経過

被災地の医師会による被災地JMAT派遣

先遣JMATの派遣
近隣医師会、ブロック、機動力のあるJMAT派遣

全国から多数のJMAT派遣（診療科や専門分野を問わず、一挙大量派遣）
統括JMATの派遣
コーディネートがDMATから行政や医師会等へ移行

JMAT派遣体制の再構築
（地域の絞り込み、計画的な長期継続派遣。必要な分野・職種）
統括JMATの派遣（今後の支援ニーズの評価）

被災地の医療機関への引継ぎ
被災地の医師会による支援活動
住民への説明
JMAT派遣終了

被災地JMAT

支援JMAT

「かかりつけ医」とJMAT活動

なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師。

「医療提供体制のあり方」 2013年8月8日(日本医師会・四病院団体協議会)

- JMATに参加する医師の多くは、平時、診療所や病院において、かかりつけ医として、あるいはかかりつけ医と連携する専門医として従事している。
- 日常的に、様々な疾患を持つ患者、また、健康や高齢への不安を抱く住民・労働者・児童生徒の相談に応じている。
- 同じくJMATのメンバーとなる看護職員をはじめとする医療従事者も、同様に地域に根差した活動をされている。
- JMATの最大の強みは、そうした方々によってチームが構成されていることにある。

被災者健康支援連絡協議会 構成団体一覧

[平成30年10月24日現在
23組織 (42団体)]

※下線 = 重複団体

大規模で広域、かつ中長期的な災害では、多様な医療・保健・介護関係者の連携がより求められる。
今後も、本連絡協議会を発展させていく。

1	日本医師会
2	日本歯科医師会
3	日本薬剤師会
4	日本看護協会
5	全国医学部長病院長会議
6	日本病院会
7	全日本病院協会
8	日本医療法人協会
9	日本精神科病院協会
10	日本栄養士会
11	大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会 ① 日本リハビリテーション医学会 ② 日本理学療法士協会 ③ 日本作業療法士協会 ④ 日本言語聴覚士協会 ⑤ 日本リハビリテーション病院・施設協会 ⑥ 回復期リハビリテーション病棟協会 ⑦ 全国デイ・ケア協会 ⑧ 日本訪問リハビリテーション協会 ⑨ 全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会／全国地域リハビリテーション研究会 ⑩ 日本介護支援専門員協会 ⑪ 日本義肢装具士協会 ⑫ 日本義肢装具学会
12	全国老人保健施設協会
13	日本慢性期医療協会
14	チーム医療推進協議会 ① 日本医療社会福祉協会 (医療ソーシャルワーカー) ② 日本医療リハビリテーション協会 ③ 日本栄養士会 ④ 日本看護協会 ⑤ 日本救急救命士協会 ⑥ 日本言語聴覚士協会 ⑦ 日本作業療法士協会 ⑧ 日本臨床細胞学会細胞検査士会 ⑨ 日本歯科衛生士会 ⑩ 日本診療情報管理士会 ⑪ 日本診療放射線技師会 ⑫ 日本理学療法士協会 ⑬ 日本臨床工学技士会 ⑭ 日本臨床心理士会 ⑮ 日本臨床衛生検査技師会 ⑯ 日本視能訓練士協会 ⑰ 日本義肢装具士協会 ⑱ 日本精神保健福祉士協会
15	日本救急救命士協会
16	日本診療放射線技師会
17	日本病院薬剤師会
18	日本赤十字社
19	日本臨床心理士会
20	日本精神神経科診療所協会
21	日本社会医療法人協議会
22	全国保健所長会
23	日本柔道整復師会

関係省庁	
厚生労働省	文部科学省
復興庁	環境省
総務省	

これからの時代に求められるもの 安全・安心で、健康なまちづくり

平時における地域包括ケアの構築、医療・介護連携を中心とした街づくりこそが、最大の災害対策といえる。

地域医師会

地域で医療・介護従事者の養成、地元へ就業→地方の雇用増、経済活性化「働き方」改革

保健・医療・介護・福祉・消防・教育・保育・防災・行政の連携体制

住まい、都市政策・生活基盤整備

- メディア
- コンパクトシティ、集住、都市のスポンジ化解消
- ICTやインフラ整備
- 住まいと交通シフト
- 世代間の交流

これからのまちづくり

地域医療、地域包括ケア

健康寿命の延伸

- 「生涯現役社会」
- 小児期・学童期からの体力づくり
- 健康教育
- 早期予防

かかりつけ医機能 (社会的・医療的)

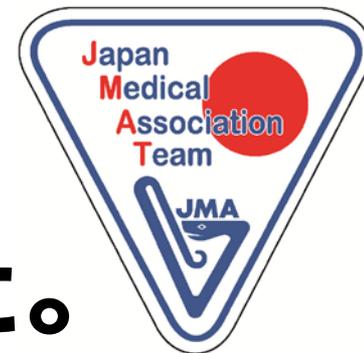
イノベーションの一般化、普遍化 (AI、ゲノム、ロボットなど)

自宅・介護施設等の急変患者の受け入れ、終末期患者の看取り

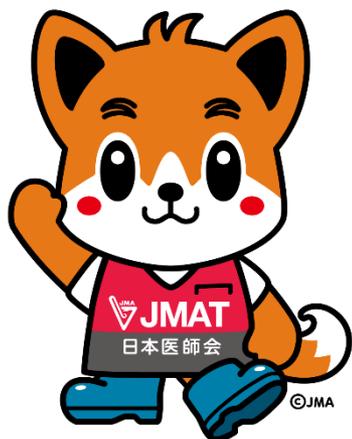
医療機能の役割分担

- 拠点病院、高度専門的病院と一般の医療機関
- 在宅医療・介護の基盤

- 市民による救急蘇生
- 救急医療の役割分担と連携 → 高齢患者増と救急搬送・医療のあり方



ご清聴
ありがとうございました。



日本医師会キャラクター
日医君

JMAT活動

	派遣チーム数	参加人員(延べ)
東日本大震災(2011年)	1,398チーム (その後派遣したJMAT II は1,365チーム)	6,054名 (6,574名)
平成28年熊本地震	568チーム	2,556名
平成28年台風10号被害	86チーム	220名
平成29年九州北部豪雨災害	10チーム	44名
平成30年7月豪雨災害	251チーム	1,029名
北海道胆振東部地震(2018年)	43チーム	246名



※被災地の都道府県医師会が派遣したチームを含む

2018年度

南海大震災訓練

災害時情報通信訓練

日本医師会・JAXA間の協定（2013年1月）に基づく

